

「学校改革！教員の時間創造プロジェクト」

発行：教育委員会事務局教育総務部教育政策課 2019.1

これまでの尽力に感謝、そして…将来のため意識改革を

教育総務部長 津田 善幸

「学校改革」のプログラム策定から、やがて1年になります。先生方にとって、何か変化を実感されることはありませんか？ 「朝自宅を出る時間が遅くなった」「帰宅の時間が早くなった」「今までと違うテレビ番組を見ることができる」「通勤途中、出会う車が違う気がする」「帰り道、寄り道をしてみたい気分になった」「何か本を買って読みたい気分になった」… 取組むにあたって、無理をしていることはありませんか？ こうした方がいいのではないかというアイデアはありませんか？

私たちは長らく懸念されていた教員の働き方について「学校改革！時間創造プログラム」を策定し、今まさに高い山の、山頂に向かって一步一步、歩を進めています。私は昨年4月現職に就き、策定段階での関わりはありませんが、具体的取組項目を網羅したプログラムを最初に見た時、これらを地道に進めることで、先生方の働き方が変わり、「時間創造」という一つの目的が現実のものになるのだと確信しました。

今、一つひとつの取組の実施に向け、日々、学校と事務局の協議や調整が重ねられています。そして保護者や地域住民の皆様をはじめとする多くの関係者の方々の理解と協力をいただきながら、進んでいることを実感しています。将来を担う「子ども」たちを様々な面で育てる学校は、多くの人たちの中心にあり、その思いと力の結集に支えられているのだと考えさせられます。

この取組は、言うまでもなく教員の働き方改革です。長時間労働が常で、子どもたちのためという崇高な思いで、自らの時間の多くを学校内外で費やしてこられた先生方のこれまでのご尽力には何をおいても敬服するばかりです。時代とともに学校に対する期待は大きく要望も強くなり、ますます先生方の勤務実態が厳しいものになっています。

私は一般行政職員ですが、どの部門にあっても市民からの要望は多岐にわたり、日夜対応に追われていた経験もあります。若さに任せて、時間を気にせず業務にあたり、がむしゃらだったことも今となっては懐かしく思えます。平成の初期、「24時間働けますか」と声高にコマーシャルをやっていた時代とは、社会全体が大きく変わりました。熊本地震後は、市



役所も、それまで何となく取り組んでいた行財政改革を本格的に進めざるを得ず、事業の「ビルド&スクラップ」、時間外勤務を削減、業務時間を管理しながらも、「市民満足度の向上」に取り組んでいます。業務の選択集中、効率化以外に道はなく、職員の意識改革、生産性向上が暗黙の合言葉です。

「現状の否定」の考えに立たないと、改革は掛け声だけに終わってしまいます。今まで「良かれ」としてやってきたことをまず否定しなければ、現状に満足してところから抜け出せず、改革は進みません。とかく役所は前例踏襲です。長くその環境にいと、考えることすら面倒臭くなります。熊本市役所の現状は、先輩から引き継ぎつつも、それに甘んじてきた私たちにあると認めざるを得ません。同じようなことから、学校改革も具体的取組を進めるにあたっては、「職員の意識改革」がとりわけ重要と考えます。

今、山頂に向けての何合目あたりでしょう？ 山頂にたどり着くことで終わりではないと思いますが、眼下を見下ろせ、見晴らしが良く、清々しい気持ちになれる場所にできるだけ早くたどり着けるよう、同じ方向を見て突き進みましょう。「変えること、変わること」は容易なことではありません。相当な力を加える必要があります。摩擦もあるでしょう。時間は、思ったよりかかるかもしれません。しかし、今変わること苦しんでいることが、後輩教員、教員を目指す人たちのためになることを信じて、一緒に取り組んでいきましょう。

変革の時代をどう乗り越えていくのか・・・

東町中学校 教諭 松田 直浩

教員の時間創造プロジェクトメンバーになり会議に参加させていただきながら、様々な課題の解決に向けて、みなさんと議論しています。課題の中には社会が求める課題、教員が求める課題、子どもたちや保護者が抱える課題など様々なものがあり、そのどれもが効果的な解決方法が見いだしにくいものばかりです。ただ、ここで立ち止まることはできず、先に進んでいくために会議を重ねているような状況だと思います。

今の状況の中でどの選択が最善なものなのか、先を見越して考えていく・・・それが全ての子どもたちや全ての教員のためになるものになるものでなければならないと考えるとその責任は大きなものだと感じています。

日々のニュースの中では毎日のように、教育関係のできごとが取り上げられています。今、教育界は変革の時代だと思います。生徒指導、授業へのICT活用、保護者対応、給食指導、部活動指導・・・など今までのやり方ではうまくいかず、新たな対応を余儀なくされるケースも多くあります。これまではこれで良かったということが、同じような対応でうまくいかないという場面が多くあります。そういった時に感じることの一つに、私たち教員自身の意識改革が必要だということです。これまでの経験や学校教育現場での常識も今一度見直して、新たな考えや行動を取り入れていくべき時代に来ているような気がします。

自分自身、子どもたちや保護者、社会や地域に広い視野を向け、先輩先生方や管理職の先生方と相談しながら一生懸命に日々の業務に邁進しなければならないと毎日感じています。



心に余裕をもって、子どもたちと向き合いたい

東町小学校 教諭 才所 尚子

放課後の教室。

数人の友達とともに担任の先生の机を囲み、先生とのおしゃべりを楽しんだ時間。「小学校の思い出は？」と尋ねられると、いつもその光景が目に残ります。

他愛のない話にうなづいたり、驚いたり、一緒に笑ったり、ときに注意されたり、先生は常に私たちに温かいまなざしを向けながら、最後までじっくり話を聴いてくださいました。そして、先生と過ごした時間で心が満たされ、次の日を楽しみに帰路についていました。

今、思い返してみると、先生は、ただ話を聴くだけではなく、私たちの話の内容に応じて様々な示唆を与えてくださっていたように思います。

そんな先生との出会いが、私を「教師」の道へと導いてくれました。

昨年度から、このプロジェクト会議に参加させていただいています。プロジェクトを構成するメンバーの一人として、重責を感じています。

近年、子どもと向き合う時間が少なくなってきたような気がします。教職員ばかりでなく、子どもたちも時間に余裕がなくなってきた、今、子どもがどんな状況にいるのか、どんなことを考え、どんな気持ちでいるのかなど、子どもと話し、心を通わす時間を生み出す難しさを感じます。日々の慌ただしさに追われ、大切なことがつい後回しになってしまうことも少なくないようです。



まず、教職員自身が心に余裕をもつこと、そして、子どもと向き合う時間を生み出すことが望まれます。

このプロジェクト会議では多くの課題に対し、毎回活発な意見交換がなされています。そして、子どもたちの豊かな人間性を育むために、教職員が意欲と能力を最大限発揮し、誇りをもって働くことができるよう、一步一步確実に前に進んでいます。

近い将来、多様な時間の使い方によって、さらに視野を広げ、心に余裕をもって子どもたちと向き合う先生とその先生を囲む子どもたちの姿、そんな光景が見られる日が、少しずつ近づいてきている・・・と感じています。

学校改革！ 学校業務改善アドバイザー 事例発表会



2／25(月) 13:30開場 14:00開始
熊本市役所本庁14階ホール

★コクヨ(株)ワークスタイル研究所 齋藤 敦子 氏 講演

日本ファシリティマネジメント協会 ワークプレイスの知的生産性研究部会 部会長
フューチャーセンター・アライアンス・ジャパン 専務理事
文部科学省 学校業務改善アドバイザー

★各学校代表者による事例発表

白川中学校・・・働き方改革あきらめなければ光は見える
長嶺中学校・・・長嶺中業務改善プロジェクトS
向山小学校・・・心も体も元気がでる職場づくりをめざして

事例発表会閉会后

齋藤氏と意見交換会(自由参加)開催します

お問い合わせ・お申込み

熊本市教育委員会事務局教育政策課



向山小学校

教頭
榎原 圭子

白川中学校

校長
桃崎 剛寿

長嶺中学校

教頭
水田 貴光

業務改善で困っていることはありませんか？

意識改革をどのように進めるか！

事例発表の中に解決するヒントがある！